筑波大学
University of Tsukuba

2022 年 10 月 28 日

報道関係者各位

国立大学法人筑波大学

がん患者が知りたいのは残された時間より「いつまで動けるか」
～予後情報に関する意向調査を実施～

がん患者にとって、予後情報は、治療方針や日常生活に関するさまざまな意思決定に影響を与える極めて重要な情報です。がん患者や家族が残された時間（生命予後）を知りたいと思っているか、という研究は世界的に行われてきましたが、近年では、生命予後だけでなく、いつまで歩けるか、いつまで食事が摂れるか、といった身体機能の予後（機能予後）も、重要な情報であると言われています。しかし、実際にがん患者が機能予後を知りたいと思っているか、についての調査は行われていませんでした。

本研究では、がん患者が機能予後を知ることに関する意向や関連する要因を、世界で初めて調査しました。その結果、33.6～46.9%のがん患者が、いつまで歩けるか、いつまで話せるか、という機能予後を知りたいと考え、26.6％のがん患者が生命予後を知りたいと考えていることが分かりました。そして、身近な人をがんで亡くした経験のあるがん患者は、生命予後や機能予後を知りたいと考える傾向がより強いことが分かりました。

この結果は、がん患者は、いつまで日常生活や仕事ができるか、を考えるために、生命予後よりも、機能予後を知りたいと考え、身近にがんで亡くなった人がいる場合、より予後情報を知りたいと考えている可能性を示しています。

今後は、がん患者の生命予後だけでなく、機能予後を予測する方法や、本人の知りたい程度に合わせた伝え方を検討することが必要と考えられます。

研究代表者
筑波大学　医学医療系
濵野 淳　講師

研究の背景

がん患者にとって、予後情報は、治療方針や日常生活に関するさまざまな意思決定に影響を与える極めて重要な情報です。これまで、がん患者や家族が残された時間（生命予後）を知りたいと思っているか、についての研究が世界的に行われており、その中で、がん患者は、亡くなる前に他人の負担にならないことが大切と考えていることや、がん患者の最期に希望することは、旅行に行くことや家族と過ごすことである、ということが分かってきました。そのため近年は、生命予後だけでなく、いつまで歩けるか、いつまで食事が摂れるか、といった身体機能の予後（機能予後）も、がん患者や家族にとって重要な情報であると考えられるようになっています。しかし、実際に、がん患者が機能予後を知りたいと思っているか、についての調査は世界的にも行われていませんでした。

そこで本研究では、2022 年 2 月に、国内のがん患者を対象に、機能予後を知ることに関する意向や関連する要因などを調査しました。

研究内容と成果

本研究では、国内のがん患者 132 名を対象に、2022 年 2 月に無記名のインターネット調査を実施しました。そのうち 67 名（50.8%）が男性であり、43 名（32.6%）が消化器がん、23 名（17.4%）が泌尿器がん、20 名（15.2%）が婦人科がんの患者でした。

この調査では、がん患者が知っておきたいと考えている予後情報や関連する要因などを調査しました。具体的には、①私は、「いつまで生きられるか」を知っておきたい（生命予後）　②私は、「いつまで自由に動けるか（旅行など）」を知っておきたい（運動予後）　③私は、「いつまで本を読むなど複雑な思考ができるか」を知っておきたい（思考予後）　④私は、「いつまでおいしく食事ができるか」を知っておきたい（食事予後）　⑤私は、「いつまでちゃんと会話ができるか」を知っておきたい（会話予後）　に対して、それぞれ「とてもそう思う」～「全くそう思わない」の 6 段階で回答してもらいました。

調査の結果、「生命予後を知っておきたい」に対して、とてもそう思う・そう思うと回答したのは、35 名（26.6%）でした。機能予後に関しては、とてもそう思う・そう思うと回答した患者が多かったのは、会話予後：62 名（46.9%）、食事予後：57 名（43.1%）、運動予後：56 名（42.4%）でした（表 1）。

また、身近な人をがんで亡くした経験があることが、生命予後、運動予後、会話予後を知っておきたいことと関連することが分かりました（表 2）。

これらのことから、がん患者は、いつまで日常生活や仕事ができるか、を考えるために、生命予後よりも機能予後を知りたいと考え、身近にがんで亡くなった方がいる場合、より予後情報を知りたいと考えている可能性が示されました。

今後の展開

本研究は、生命予後以外に、がん患者が知っておきたいと考えている予後情報について分析した初めての調査です。本研究結果が、がん患者の生命予後だけでなく、機能予後を予測する方法や、本人の知りたい程度に合わせた伝え方を検討することに活用されていくことが期待されます。

参考図

表１　がん患者が知っておきたいと考えている予後情報

	生命予後		運動予後		思考予後		食事予後		会話予後	
	n=132	%	n=132	%	n=132	%	n=132	%	n=132	%
とてもそう思う	15	11.4	25	18.9	18	13.6	25	18.9	25	18.9
そう思う	20	15.2	31	23.5	29	22.0	32	24.2	37	28.0
どちらかというとそう思う	41	31.1	37	28.0	37	28.0	29	22.0	27	20.5
どちらかというとそう思わない	27	20.5	18	13.6	23	17.4	24	18.2	24	18.2
そう思わない	24	18.2	15	11.4	19	14.4	13	9.8	10	7.6
全くそう思わない	5	3.8	6	4.5	6	4.5	9	6.8	9	6.8

表２　がん患者が知っておきたい予後情報に関連する要因

	生命予後		運動予後		思考予後		食事予後		会話予後	
	相関	p	相関	p	相関	p	相関	p	相関	p
女性	-0.008	0.927	-0.018	0.841	0.027	0.758	-0.002	0.981	0.014	0.871
65歳以上	-0.120	0.170	-0.153	0.079	-0.142	0.103	-0.107	0.222	-0.121	0.165
転移がある	0.145	0.098	0.041	0.640	0.011	0.904	-0.052	0.550	0.047	0.596
がんと診断されて2年以内	0.061	0.484	0.106	0.228	0.166	0.058	0.144	0.100	0.113	0.199
抗がん剤治療中、もしくは終了後	0.049	0.580	0.011	0.902	0.078	0.372	0.000	1.000	-0.021	0.807
既婚	0.130	0.136	0.078	0.375	0.001	0.987	0.050	0.569	0.056	0.524
家族と同居	0.105	0.230	0.087	0.323	0.022	0.799	0.054	0.538	0.129	0.141
高校卒業以上	0.031	0.724	0.024	0.787	0.077	0.383	0.033	0.705	0.047	0.596
身近な方をがんで亡くした経験がある	0.344	<0.001	0.210	0.016	0.165	0.059	0.103	0.240	0.180	0.038

研究資金

本研究は、日本学術振興会　科学研究費の一環として実施されました。

掲載論文

【題　名】 Preference of Japanese cancer patients for being informed about their prognosis
（がん患者が知っておきたいと考えている予後情報について）

【著者名】 Jun Hamano, Yusuke Hiratsuka, Tatsuya Morita, Yoshiyuki Kizawa, Isseki Maeda, Masanori Mori

【掲載誌】 Annals of Palliative Medicine

【掲載日】 2022 年 10 月 24 日（オンライン先行公開）

【DOI】 10.21037/apm-22-772

問合わせ先

【研究に関すること】

濵野 淳（はまの　じゅん）

筑波大学　医学医療系　講師

URL: https://trios.tsukuba.ac.jp/ja/researchers/3463

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp